

アーサーとミニモイの不思議な国

2007(平成19)年9月16日鑑賞(梅田ピカデリー)

★★★



監督・製作・脚本＝リュック・ベッソン／原作＝リュック・ベッソン『アーサーとミニモイの不思議な国』(角川文庫刊)／出演＝フレディ・ハイモア／ミア・ファロー／ロン・クロフォード／声の出演＝マドンナ／ジミー・ファロン／ロバート・デ・ニーロ／デイヴィッド・ボウイ／スヌープ・ドッグ／アレン・ホイスト (アスミック・エース配給／2006年フランス映画／104分)

……リュック・ベッソンの監督第10作目は、巨費を投じた3-Dアニメ！アーサー少年が宝物探しに旅立ったのはえらく現実的な動機からだが、美しい映像で見せてくれるミニモイ国での冒険はファンタジー色いっぱい！大きな視点と小さな視点を2つ持つことの大切さが、この映画の大きなテーマだと私は理解したが、さてあなたは……？

実写版の登場人物は……？

この映画のうたい文句は、「実写と3-Dアニメが融合した超ミラクルなファンタジー・アドベンチャー！」というもの。まず実写版で主人公アーサーを演じるのは近時、『ネバーランド』(04年)、『チャーリーとチョコレート工場』(05年)、『プロヴァンスの贈りもの』(06年)等で名子役ぶりを発揮しているフレディ・ハイモア。しかし彼は物語の途中から3-Dアニメの世界へ……。

もう1人実写版で登場するのは、『ローズマリーの赤ちゃん』(68年)でガリガリに痩せた恐ろしい姿が印象的だったミア・ファロー演じるおばあちゃん。1981年にウディ・アレン監督に出会った後、公私ともに彼のパートナーとして数々の映画に出演してきた彼女は1945年生まれだから、すでに62歳。したがって彼女は今やおばあちゃん役にピッタリ……。

さらにもう1人、ほんの少しだけ登場するのがアーサーが大好きだったおじいちゃんアーチボルト(ロン・クロフォード)。冒険家のおじいちゃんは自宅にアフリカの

種族や数々の発明品を記録した古い書物を残したまま行方不明になってしまったが、おじいちゃんは一切どこへ……？ 空想大好き少年アーサーは、そんなおじいちゃんを探し求める旅に出ることをいつも夢みていたが……。

フランス流 3-D アニメの登場人物は……

フランス流の3-Dアニメの世界でも、主人公は突然身長2mmのミニモイ族に姿形を変えてしまったアーサーだが、その他ミニモイ国の王女セレニア（マドンナ）とその弟ベタメッシュ（ジミー・ファロン）の2人が主要なキャラ。その他にもアーサーのおじいちゃんアーチボルトの親友であるミロや、その息子であるミノ、さらに音楽とお酒が大好きなクールなコンビ、マックス（スヌープ・ドッグ）とイージーロー（アレン・ホイスト）も登場する。

他方、ミニモイ国の悪の帝王は、闇の都市ネクロポリスを根城に、7つの王国の支配をたくらむ「悪魔M」ことマルタザール（デイヴィッド・ボウイ）とその息子ダルクス。このように、この映画は実写版より3-Dアニメ版の方が登場人物が多く、また時間的にもストーリー的にも、圧倒的にウエイトが大きいことに注意。したがって、この映画は「実写と3-Dアニメの融合」と言いながら、実写版はプロローグとエピローグという位置づけであり、そのエッセンスはフランス流3-Dアニメのファンタジー・アドベンチャーに……。

ファンタジーな映像あれこれ……

映像技術が急速に進歩している昨今、3-DCGアニメーションを売りにした『ベクシル—2077日本鎖国—』（07年）やSTUDIO4℃が作り出したクリエイティブな映像が売りモノの『Genius Party』（07年）、また実写版でありながら、CGを多用した『ファウンテン 永遠につづく愛』（07年）（5月22日鑑賞）や『サンシャイン2057』（07年）（『シネマルーム14』347頁参照）、さらにモノトーンをやけに強調した『300 スリーハンドレッド』（07年）（6月13日鑑賞）や『シン・シティ』（05年）（『シネマルーム9』340頁参照）など、最近は映像の美しさを競う作品が急に多くなっている……。

ファンタスティックなストーリーの映画化にはファンタジーな映像が向いているのは当然で、『ロード・オブ・ザ・リング』3部作や『ナルニア国物語』、『ハリー・ポッター』シリーズなど、その手の大作は近時数多い。そんな流れの中、リュック・ベ

ッソン監督がフランス映画とフランスアニメの威信をかけて世に問うたのがこの『アーサーとミニモイの不思議な国』であり、3-Dアニメにおける映像の美しさは申し分のないもの。ちなみに、この映画の製作費は80億円とバカでかいが、そのほとんどはミニモイ国での宝物探しの映像をつくり出すために使われたはず……。

他方、この映画の3-Dアニメ部分で私が感じたのは、あまりにもスピードが速すぎるため、動体視力の衰えた団塊世代の私たちは、ついていきにくいこと……？ 身長約150cmのアーサーが、突然2mmの身長に変身してしまうから、『ガリバー旅行記』の小人の国以上に大小の感覚を修正しなければならないことと相まって、アーサーの置かれた状況を理解するのに多少の時間を要するというわけだ。

リュック・ベッソン監督が、3-Dアニメでつくり出す美しい映画にケチをつけるつもりは毛頭ないが、欲を言えばもう少しスピードダウンしてほしかったと思うのは私だけ……？

宝物探しのアドベンチャーに旅立つ動機は……？

3-Dアニメを駆使したストーリーがアドベンチャー的なものになっているのは、おじいちゃんが庭に隠した宝物探しの旅にアーサーが出かけていくため。もっとも、アメリカの景気は必ずしも順調ではないようで、おじいちゃんの失踪後、おばあちゃんとアーサーの生活にもそんな影響が……？ すなわち、借金返済の期限を突きつけられ、返済できないときは庭付き一戸建ての家を立ち退かなければならないという現実的必要性から、アーサーは宝物探しの旅に出るわけだ。

しかし、現実的なお話はそんな冒頭部分の実写版でおしまい。おじいちゃんの残した本を読み込むことによって発見した宝物の地図、ミニモイ国や7つの王国の存在を知ったアーサーは、満月の夜、ボゴ＝マタサライ族の協力によって、ミニモイ国の世界へ入り込むことに大成功。さあ、ここから始まるアーサーの宝物探しの旅は……？

大きな視点と小さな視点、両方の大切さ……

私たち団塊世代は、誰でも幼児期に『ガリバー旅行記』をワクワクしながら読んだ経験があるはず……。しかし、読書離れが進み、テレビゲームに熱中する今ドキの子供たちは、ひょっとしてそんな本も読んでいないかも……？

リュック・ベッソン監督がこの映画の脚本を書くにあたっては、あらためて『ガリ



©2006 EUROPACORP-AVALANCHE PRODUCTIONS-APIPOULAI PROD

『バー旅行記』の小人の国の話を参考にしたに違いない……。また、体長2mmのミニモイ国の人々がどんな生活をしているのかを映像として映し出すについては、小人の視点からアーサー家の広大な庭=宇宙を見直したはず。

すなわち、映画の冒頭、アーサーが発明したストローを使った排水路は、彼らにとっては巨大な運河であるとともに滝であり大激流。また、花は大きなベッドだし、ミミズやアリは人間にとっての象やかつての恐竜のような存在。また、蚊はいわば空中から戦闘を仕掛けてくる、かつて日本海軍が誇った零戦の性能を大きく超える優秀な戦闘機。

敗戦国日本に対するアメリカの占領統治は大成功をおさめた(?)が、アメリカがベトナム戦争の失敗に続いてイランへの攻撃とその民主化政策に失敗したのは、アメリカやブッシュのイスラム世界についての理解が不足していたため。つまり、物事を見るについては複眼的視点が必要だが、それ以上にこの映画でよくわかるように、大きな視点と小さな視点の両方が大切なわけだ。それによって、1輪の花や1匹のミミズや蚊の意味が全く異なるものになるわけだから……。

2007(平成19)年9月22日記